令和２年度　学校の自己評価の結果と改善策

昭和町立押原小学校

教職員アンケート結果をもとにしながら，保護者アンケートの結果もふまえて，学校の自己評価を行った。

教職員アンケートについては，「そう思う」を４点，「ややそう思う」を３点，「あまりそう思わない」を２点，「そう思わない」を１点として，各項目の平均点を算出している。評価は，７月（前期），１２月（後期）の２回行っている。保護者アンケートについては，各項目における「１　そう思う」，「２　どちらかというとそう思う」，「３　どちらかというとそう思わない」，「４　そう思わない」の各選択肢の割合（%）を算出している。

（１）基本的生活及び行動習慣の定着と徹底

教職員アンケートでは，前期に比べると評価数値が全体として上がっている。保護者アンケートにおいても生徒指導に関わる項は「そう思う，どちらかというとそう思う」の肯定率がおよそ９８％となっており，全般的に高い。しかし，教職員アンケートの「（１）③登下校時，ＰＴＡ旗振り当番や地域の方々にあいさつができるなど，児童と地域の交流は深まっているか。」については，前期に比べ後期は下がり，後期の中では最も低い評価 2.8 となった。

教職員アンケートの後期の評価数値が向上しており，保護者の肯定率も９８％になっていることは，学期を追うごとに子どもたちに基本的な生活習慣が定着してきていることへの評価と捉えることができる。今後も継続して，職員一丸となって指導に取り組んでいくことが求められる。

一方，教職員アンケートで（１）③の評価が低下していることについては，その要因を探り，対応していくことが必要である。ただし，これに関して，教職員から，児童会活動の取組の成果を指摘する声もあがっている。今後もこの成果を継続させ，明るいあいさつができる学校を目指し，児童自ら主体的に生活を見直し向上させていく学校作りに努めていくことが重要である。

（２）話の聴き方，話し方，ノートのとり方など基本的学習及び行動習慣の定着と徹底

教職員アンケートでは，前期に比べると後期の評価数値は全体として上がっている。保護者アンケートでも，学習指導に関わる項の「④教職員は，分かりやすい授業に努めている」「⑤教職員は，思考力や表現力などを高める授業に努めている」「⑥学校は，児童の道徳心を高める指導を行っている」の肯定率がそれぞれ９７％と高い。

教職員アンケートの「（２）③思考力・判断力・表現力等を高めるためのノートのとり方の指導が，計画的・継続的に行われているか」は，前期と比較し，後期では伸び率が高い。

校内研究会を通してノート指導や板書等について共通理解を図ったことにより，本校職員の授業づくりへの熱意や意欲が向上したことがうかがえる。今後は，校内研究での成果や課題もふまえ，話の内容を正しく聞き取ったり，相手・目的・場面を意識したりするための系統的な学習指導等を着実に実践し，引き続き授業改善に努めていくことが重要である。

保護者アンケートでは，学習活動に関しておおむね肯定的ではあるが，「どちらかというとそう思わない」という回答が，それぞれの項につき２～３％ある。このことからも，「分かりやすい授業」,「思考力や表現力などを高める授業」にむけた授業改善に積極的に取り組み，教師の授業力向上を図ることが重要である。

特に家庭学習については，保護者アンケート「⑧学校は，家庭学習について連携を図っている」で「１　そう思う」より「２　どちらかというとそう思う」の回答が多い唯一の項であり,「３　どちらかというとそう思わない」がアンケートの全体で最も高い。このことは，学校・家庭の連携の必要性を示していると捉えられる。家庭学習については，年度途中に本校として家庭学習の充実に向けて取り組んでいく方針や具体策にむけた方向性を校内で確認したが，今後，さらに各学年の実践を通じて，家庭との連携も図りながら進めていくことが重要である。

（３）安全で元気に楽しく仲よく遊び，心身ともに健康な体づくり

教職員アンケートでは，前期に比べると評価数値は３項とも上がっている。保護者アンケートの「⑦学校は，児童の体力向上や健康の保持増進のための指導を行っている」も「そう思う，どちらかというとそう思う」の肯定率が９８％と高い。学校再開後，感染状況が落ち着いた２学期になり，児童の体力向上をめざした運動を授業に取り入れたり，　休み時間になわとびの取組を適宜実行したりすることができたことへの評価と考えられる。

２学期末には「アクティブ・チャイルド・プログラム」の事業を活用し，１～３年生に「投げる力」を高める取組もできた。運動会種目の練習する姿や休み時間校庭でなわとびの練習をしている姿が見られる等，児童が自主的に行う姿も見られた。今後も自主的な活動を期待するとともに，町の事業等も有効に活用しながら心身ともに健康な体づくりにつなげたい。

また，コロナ感染症対策については，保護者アンケート「⑪学校は，コロナ感染症予防の対策を適切に取り組んでいる。(健康チェック表・手指の消毒・マスクの着用・教室の換気・給食前の机の消毒等)」の「１　そう思う」の回答率が８０％とすべての項の中で最も高い。今後も国や県の通知を含め，正確な情報収集に努め，対策をしていきたい。

（４）保護者や地域の人々と参画・協働・熟議・互恵を基調とした開かれた信頼される学校の創造

教職員アンケートでは，前期「（４）②授業参観や道徳公開，家庭訪問，個別懇談，地区懇談会，学年ＰＴＡ行事等は，三者の双方向の意見交換の機会として機能しているか」が最も評価が低かった。本年度は，コロナ禍での対応を余儀なくされ，保護者や地域の方々との

交流が制限された状況を反映したものともとらえられる。感染拡大が落ち着いた２学期は，地区別授業参観や道徳授業公開を保護者に限定し行うことができた。そのため，前期で低かった教職員アンケートの項も上昇したと考えられる。このことに関しては，保護者アンケートの「⑬家庭訪問，個別懇談，地区別授業参観などは，教職員と保護者が相互に理解を深めたり課題を共有したりする機会になっている」も「そう思う，どちらかというとそう思う」の肯定率が９８％となっており，評価を得ていると考えられる。

また，保護者アンケートの「⑫学校からの通知やお便り，ホームページなどは，保護者に必要な情報を伝えている」「⑭学校は，保護者の意見や要望に対して適切に対応している」も肯定率が高い。本年度も，学校通信「ねっとわーく押原」，ブログ，ホームページ，学年便り，保健・図書・給食等のお便りなどを通じ，学校からの情報発信に努めた。また，特に本年度は，コロナ禍に伴い，日々の教育活動の実施について継続的に変更や対応が必要となったことから，各学級の学習予定について，時間割形式の週報の形で毎週発行し，家庭への周知にも努めた。これらのことがこの項の肯定的な評価にもつながっていると考えられる。

なお，（８）にも記したとおり，本年度は，今回の保護者アンケートの対象を全家庭に広げた。家庭における ICT 環境の状況調査や，運動会に関する保護者アンケートなども行った。また，それぞれへの回答や結果データ収集は，ネット上のアンケートフォームを通じても可能な形にした。これらは，家庭からの意見や情報の収集をより広い範囲から，円滑，効果的に行えるように意図したものである。それらの結果は，各種懇談会や連絡帳等を通じて寄せられる声などとともに，以後の改善策等を検討するための貴重な資料となっている。今後，アンケート等の結果活用の状況や関わる改善への見通し等も段階的に公開するなど，双方向の情報の交流も大切にしながら，引き続き，保護者や地域の人々の参画・協働・熟議・互恵を基調とした開かれた学校づくりに努めたい。

（５）コミュニティ・スクール等の特色ある教育の推進

本年度は，コロナ禍の中で例年通りの活動はできず，感染症対策を取りながらできることは何かを模索しながら，取り組んだ。例えば，「CS 感謝の集い」は日ごろお世話になっている地域の皆様に感謝の手紙を送ったり，クラブ活動では，地域からの支援を得ている活動についても感染症対策ができる内容に絞り込んだりした。その取組に対して，地域から温かい声をいただいた。保護者アンケートの「⑮コミュニティ・スクールとして，学校と地域との連携を深める取組が行われている」でも９８％の肯定率である。家庭や地域と共に進めるコミュニティ・スクールとしてのコンセプトが浸透している様子がうかがえる。今後もこうした理解が得られるように努めていくことが重要である。

なお，「学校と地域との連携」に関わる具体的な組織体制，仕組み，方法，程度などについては，「学校運営協議会」の一層の充実を図るとともに，町政において意識化が進みつつある「地域学校協働活動」の具現化をめざして検討を重ね，その内容を地域や家庭としっかり共有していけるようにしたい。また，ひとつひとつの事業推進にあたっては，今後も続く

と想定される感染症の状況への対策をとりながら，工夫して可能な限り取り組んでいきたい。

（６）学校の施設設備や教育環境を生かした多様な学習と質の高い授業の実践

教職員アンケートの記述に「自然あふれる本校では，季節の移ろいを児童が実感し，学習することができている」「恵まれた教育施設であるため，感染症対策として教室内で密にならないように机の間隔を広げることができていたり，押原の杜や芝生など本校の施設設備を有効に活用したりすることができている」という声があがっている。ICT の現状の課題として，教職員アンケートの記述においても「充実した ICT 環境を活用し，児童のより深い理解を図っている」の声があるが，その一方では「iPad，電子黒板が使いにくい」の声もあがっている。良い点は継続し，課題は改善していく。GIGA スクール構想による児童一人一台端末，教師用 PC が年度末には整備される予定である。今後，研修や実践を重ね，授業に活用していきたい。

また，学習面，生活面で個別の対応が必要な児童の増加が今後も予想される。本年度の全教職員（コロナ対応増員含む）による支援体制は，多くの場面で教育効果を上げている。この点については，保護者も，児童を理解し寄り添う教職員の対応について肯定的な捉えをしていることが，生徒指導，学習指導に関する保護者アンケート項目の結果からうかがえる。今後も，教職員の配置に向けた要求を継続していくとともに，校内の組織体制を十分活かした，効果的な実践を進めていきたい。

（７）めざす教師像

本校の教職員は，教育公務員としての自覚をもち，児童のために創意工夫をし，職務を遂行しているという声が教職員アンケートの記述においてよせられている。保護者アンケートからも，各分野の項目において，教職員の姿勢への肯定的な評価が得られている。円滑な学校運営のため，全職員が協働し，安心安全で信頼される学校づくりに励んでいる様子を反映したものととらえられる。

本年度は，次項にも記すとおり，保護者アンケートを全家庭対象に行うようにした。これも保護者との望ましい人間関係を築くことに努めることの一環である。今後も，めざす教師像を教職員が共有しながら，努力を重ねていきたい。

（８）その他（学校の自己評価に向けた各種アンケートの改善等について）

保護者アンケートについて，昨年度までは PTA 役員を対象としていた。今年度は，より広い範囲からの声を収集し，全体的，客観的な評価につながっていくよう，第２回学校運営協議会（１１/１７）での検討も通じて，全世帯の保護者を対象に実施することとした。今後もこの方法を継続し，学校の自己評価に活かしていきたい。

今回の教職員アンケートと保護者アンケートの各項目については，昨年度までの結果と

の比較を行う場合を考慮し，従前の項目構成をできるだけ踏襲した。だが，２つのアンケート項目について相関性が十分ではない点があり，ある調査内容に関して，教職員，保護者それぞれの評価を比較することが難しい点も見いだされた。２つのアンケートについて，項目の内容や全体の構成を再検討することが必要である。さらに，児童を対象としたアンケートを，２つのアンケートと相関性のある項目構成によって実施していくことも検討する余地があると考えられる。

学校の自己評価に資する情報がさらに適切に得られるよう，教職員，保護者，児童の三者のアンケートの内容や構成について改善していくことを，来年度への検討課題としたい。